

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年7月4日 NO.28



モンタ博士「わーい！わーい！うれしいなったら、うれしいな。」

花ちゃん 「モンタ博士！どうしたんですか？」

モンタ博士「ヤッター！ヤッター！ヤッターマン！国立バンザイ！うれしいな。」

オー君 「モンタ博士！熱（ねつ）でもあるんですか。だいじょうぶですか。」

モンタ博士「これがよろこばずにいられるかっちゅうのよね。うれしいな。」

花ちゃん 「それで、何がそんなにうれしいのですか。」

モンタ博士「良く聞いてくれたね。話すと長いけどね、あのね、用務主事の高坂さんが、ルリボシカミキリを見つけて持ってきてくれたんだよ。高坂さんのおうちは国立市内で学校の近くなんだよ。モンタ博士はね、ルリボシカミキリは国立市にはもういないと思っていたんだ。それでうれしくて興奮（こうふん）し

ているというわけなんだよ。」

オー君 「そうか！1匹いたということは、ほかにもいるということですね。」

モンタ博士「さすが！オー君。よいところに気づいたね。国立市内、または学校の近くでも見ることができそうだとしたことなのさ。きのうの朝も、インターの方から来るMさんとSさんの情報によると、同じものを見たそうなんだ。なんだかとてもわくわくドキドキしてきたね。」

花ちゃん 「まあまあ！モンタ博士おちついておちついて！ところで、どうしてルリボシカミキリがそんなにお気に入りの虫なんですか。」

モンタ博士「うれしいことを聞いてくれるね。あのね、瑠璃色（るりいろ）というのはね、むらさきがかったちょう美しくあざやかな青という意味なんだけど。るりという名前がついたものにはすてきなものがいっぱいなんだ。ルリヒラタムシ、フタバハリハカミキリ、ルリクワガタなんてやつもいるんだ。ほかにもいっぱいなんだ。」

オー君 「たとえば、どんなものがあるのですか。」

モンタ博士「チョウでは、ルリタテハ！これがまた美しくて品（ひん）もあっていいねー。」

花ちゃん 「あ！そうだ。植物にもありますね。ヤマルリソウとか。」

モンタ博士「さすが！花ちゃん。よく知ってるね。感心感心。他にもルリハコベ、ルリトラノオ、ルリハッカ、ルリミノキ、ルリソウ、ルリイチゲなどもあるね。鳥では、オオルリ、コルリ、ルリカケス、ルリビタキなども、とってもきれいですてきな鳥だね。」

WANTED

花ちゃん 「わたしも、ルリボシカミキリを見つけないでーす。」

オー君 「花ちゃん。かならず、この第七小学校の近くにいるはずだから、ぜったい見るかるさ。」

モンタ博士「それでは、ルリボシカミキリを指名手配（しめいてはい）：WANTEDだ。みんなで探しに行こう！」

花ちゃん・オー君「そうしよう！そうしよう！」



ルリボシカミキリの特徴→日本を代表する美しいカミキリムシで、山地の広葉樹の伐採木や立ち枯れの木に飛んでくる（モンタ博士は一度に5匹ゲットしたことあり）ブナ・カエデ・ニレ・クルミなどに産卵する。大きさは20～30ミリ。日本全国に分布する。